

言葉の向こうに

【資料について】 相手の気持ちを考える【相互理解、寛容】 教科書p86～p89

主人公「私」は、インターネットでヨーロッパのあるサッカーチームのA選手のファン仲間との交流を楽しんでいる。ある試合をきっかけに、心無い書き込みが続いたことに怒った「私」は、自分のひどい言葉で応酬し、注意されてしまう。やりとりを見た人の「言葉の向こうにいる人々の気持ちを考えてみて」という言葉から、「私」が気づいたこととは・・・？

【ねらい】

それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。



「私」が発見したすごいこととは何だろう。

A選手への批判の言葉に対して、字面だけにとらわれず、相手のことも考えることが必要。

見えないからこそインターネットの向こうにいる人の気持ちを考える。

ネットで相手の顔が見えないからこそ相手のことを考えて尊重すること。

相手がどのようなことを思っているのか想像して考える。

字面だけで気持ちを読み取るのではなく、画面の向こうの顔や気持ちを思い浮かべると本当の相手の気持ちがわかってくる。



相手の顔を思い浮かべながらコミュニケーションをとることが大切。

相手の気持ちを考えた行動とはどんなものだろう。

相手がどう思っているのかや、自分の発言に対しどう思うのかを先に考えて行動する。

相手の立場に立って一度考えてから行動する。

第三者にも自分の声や行動が聞かれていたり見られたりしているを意識する。

相手の意見も1つの意見としてちゃんと受け入れること。

様々な考えの人がいるということを理解して、認めようとする。

相手の気持ちは読めないけど、読むつもりで接したり話したりする。

優しい言葉遣いで相手の気持ちを考えながら発言する。

その時の自分の考えや思いだけで行動せずに、相手がそれを受けてどういう気持ちになるのかを考えて行動する。

言葉や言動だけで批判せず、相手も気持ちをよく考えて行動する。